

南国病院広報誌

第11号 2012年1月14日発行



日本医療機能評価機構認定病院
平成23年8月5日
審査体制区分2
Ver.6.0



つくし

■発行元■

南国市大涌甲 1479-3

医療法人つくし会 南国病院

<http://www.nankoku-hp.or.jp>

新年のご挨拶

病院長 中澤宏之

新年明けましておめでとうございます。震災で日本全国が辛い思いをした一年が終わり、新たな年を迎えました。本格的な復興が進み、この一年が皆様にとって元気で希望のある年になる事を祈念いたします。

当院でも、既にご案内しました様に院内の防災対策の確立を今年の大きな事業として位置づけております。12月には最初の防災・防犯委員会を開催しましたが、検討すればするほど課題が見つかり、まだまだ時間と労力を必要としそうです。患者さん・職員の安全確保、残された機能での事業継続、災害時における地域への貢献などを重点課題として取り組みを続けていきますので、ご協力の程よろしくお願いたします。また、皆様のご支援のもと平成23年3月末で完了した敷地内全面禁煙ですが、ただ喫煙を禁止するだけでは不十分であり、禁煙支援体制を今後も強化していくことが重要と考えます。その一環として、平成24年4月より禁煙外来の開設を予定しておりますが、これが職員や地域の皆様の健康増進の一助となれば幸いです。その他にも、平成23年度の事業計画と併せて、IT化の更なる促進、学術研修の活性化を図りたいと思っております。

震災後の支援活動でもよく強調されましたが、困難な局面である程多職種連携やコミュニケーションが求められます。当院が進める多職種連携・チーム医療の活性化は院内だけでなく地域医療にとっても同じく重要なキーワードであり、当院が地域と密接に連携のとれた、信頼される、選ばれる病院となる様、今年も一丸となって努力を続けてまいりますので、引き続き職員の皆様のご協力をお願いします。



職員旅行(日帰り)に行って来ました!!

レオマワールド
H23.11.13(日)

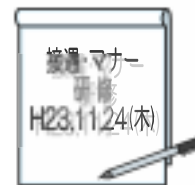


今回初めて日帰りの職員旅行に参加させて頂き、親子共に楽しかったです。子供もほぼ全ての乗り物に乗りましたが、「ジェットコースター」だけは怖かった様で泣いてしまいました。でも、又行きたいと行く気満々です。子供連れの者には、子供を連れて参加出来る旅行が一番有難いです。機会があれば、又是非参加させて下さい。

職員旅行でレオマワールドに子供2人を連れ参加させて頂き、子供とふれ合う時間が多くない自分にはとても楽しい時間となりました。子供達も他職員のお子さんと交流が持て楽しい時間を過ごせたと思います。また、機会があれば参加させて頂きたいです。



院内学術研修会



みなさん、あけましておめでとうございます。
学術研修会の担当として、一部の研修会についてコメントさせていただきます。

23年度の学術研修会において、外部講師をお招きして、防災に関することや接遇に関する事、褥瘡対策に関する事及び医療ガスに関する事について、それぞれの方にご講演いただきました。

防災は、高知県立芸陽病院の西田初美看護部長にお話いただきましたが、数多くの課題が山積していることに気付かされましたし、今後、私たちのなすべきことがわかり、毎月1回の防災・防犯委員会でもみなさんのモチベーションが上がっていることがわかりました。

接遇は、高知県立安芸病院の谷岡良一看護長に、手の動かし方に至る細やかなところまで、接遇マナーを教えてくださいました。私は個人的には、非常に参考にあり、業務に活かしているところです。

褥瘡対策に関しては、スミス・アンド・ネフュー ウンド マネジメント (株) 広島営業所の松尾克己さんに最新の褥瘡ケアガイドや最新の被覆材の紹介がありました。非常にわかりやすい資料の配布もあり、みなさんに役立つお話だったと思います。洗浄剤などで創周囲の皮膚を洗うのは、少し面倒なように、私個人は感じましたが、特に2病棟、3病棟の看護師さんには参考になったのではないのでしょうか？

医療ガスは、四国アセチレン工業 (株) の櫛田正利係長に、医療ガスの取り扱いについての注意点を教えてくださいました。ガスボンベの流出口が開放されると、どれだけ激しく動き回るか、その恐ろしさを貴重なビデオでお示しいただいたことは印象深い体験でした。難しい話もありましたので、今後は、もう少し実際の備品や設備を見ながらの講習も必要かと感じました。

以上、簡単ですが、4つの学術研修会について、ご報告と感想を記述させていただきました。

学術研修委員会委員長
精神科部長 玉元 徹



南国病院職員満足度調査の結果報告

南国病院職員満足度調査を
第1回 (H20年10月)
第2回 (H21年9月)
第3回 (H23年12月) と実施しました。

第1回～第3回を比較してみると

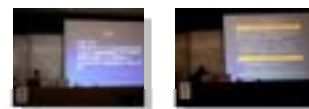
- * 同僚との人間関係は良好である
- * 自由に意見が交換できる職場である
- * 他職種との連携がとれている
- * 院内外での自己啓発の研修の場がある
- * 業務改善に対する自らの意見が評価される
- * 全体として今の仕事に満足である
- * チームワークがとれている職場である
- * 医師は協力的である
- * 福利厚生に気が配られている
- * 研修や学会に出る機会が確保されている
- * 休暇は取りやすい
- * 定年まで働きたい

等、多くの項目において、「そう思う」の回答者数が上がり、逆に「そう思わない」の回答者数が下がっている結果が得られました。

患者様、ご家族の方々の満足度を上げていくためには、
まず職員の満足度を上げていく事が必須だと思います。
今後も病院職員の満足度調査を実施すると共に、
PDCA サイクルを回し、職員のやりがいを高めて行ければと思います。

業務改善委員会委員長
看護部長 佐光真由美

学会に参加して



第52回 中国・四国精神神経学会 第35回 中国・四国精神保健学会 精神科デイケア 作業療法士 今城恵理

平成23年11月18日、19日と第52回中国・四国精神神経学会、第35回中国・四国精神保健学会に参加し、精神保健学会において、「精神科デイケアにおける就労支援のあり方～就労プログラムを通して～」という内容にて発表を行ってきました。

精神保健学会では、作業療法士だけでなく、看護師や精神保健福祉士と様々な職種が発表しており、入院中から地域まで幅広い演題がありました。また、特別講演やシンポジウムでは、最新の精神保健についてや震災から学んだことなど勉強になるものが沢山ありました。

今回の発表では、当院精神科デイケアで行っている就労プログラムについて行いました。昨今、様々な病院で行われている就労プログラムですが、当院の特徴や今後の課題、展望を発表することで、意見を頂くことも出来ました。今回の発表で頂いた意見を今後のプログラムに反映出来るよう、デイケアの中で話し合い、プログラムを実施していけたらと考えています。そして、今回の発表でご協力いただいた方々に感謝申し上げます。



第53回 全日本病院学会に参加して (沖縄)

栄養部長 宮地悦美

1日目は一般演題、2日目はシンポジウムに参加した。

一般演題ではリハビリテーション関係、栄養・給食関係に参加した。リハビリ関連の一般演題では既往歴に脳性麻痺のある人口呼吸器装着患者に、STが長期にわたり介入し、胃瘻を脱却した症例や臨床心理士の参加により、抑うつ状態などの心理的問題に介入することで、食事の摂取量UPにつながり、チーム医療の実績UPとなった症例など、職域の枠を感じさせない演題が多いことに、関心をもった。

栄養・給食関係では嚥下困難者への、胃瘻の適応からソフト食への経口摂取の考察等、一連の栄養管理についての演題、災害時の食事の運用など、時勢に応じた演題が多く、委託会社関連の演題の多いことを知った。

災害関連では、給食産業のシンポジウムにて、緊急災害時の給食対応をテーマに挙げ、今回の大震災時の対応のまとめが報告された。ネットワークの大きさやクックチル(数日前に食事を作る提供の仕方)では給食産業のメリットが生かされた事が報告された。

2日目は病院のあり方委員会企画「未来(2025年)の医療提供体制」に参加した。このシンポジウムは来るべき高齢社会に対応すべき、今後の医療のあり方を検討しようという会で、大きく①機能分担と役割分担を持たせた病院を地域ごとに構築する。②診療情報の公表、医療機関の情報を公開し、継続的質の向上の努力をする。③高齢者の定義を70歳以上とはどうか。④診療報酬を一定の臨床指標に基づく支払いとしてはどうか。⑤医療保険の統合、などが議論された。なかでも特に診療報酬の一つの考え方として、一定の臨床指標に基づく考え方(成功報酬や血糖などの臨床データに基づき、診療報酬の支払い額を検討する考え方)は斬新的なものであった。しかし、急性期の病院と療養型の病院とはその機能のちがいがからも、今後の検討課題は多いとの見解であった。そのためにも診療情報の公表は必要であり、医療者側と患者側との共有認識も必要であることなどの意見が出された。医療保険の統合も今後の国の財政を考えた場合、分けて考えられないのかもしれない。

その他、ランチョンセミナー「食べて治す、食べて癒す」では今後増え続ける医療体制の中で、栄養管理を駆使した社会体制を構築することが大切。医療の予防、基礎は栄養管理である。「魅力的ある職場環境創り」では人を喜ばせることで、円滑な職場環境が維持できることを楽しく学んだ。

栄養部運営に関し、医療の大きな流れや、先進的な運営方法を学ぶことが出来た今回の研修は、非常に有意義な研修であった。青い空とスカイブルーの海にかこまれて楽しい研修会を終えた。

「第7回 四国摂食・嚥下研究会」に参加して

リハビリテーション部言語聴覚療法室 桑原生子

第7回 四国摂食・嚥下研究会が平成23年11月25日に愛媛大学医学部で開催されました。当院からは、院長先生、田井看護師、豊田看護師、玉木看護師、宮地管理栄養士、ST 桑原が参加しました。また、「長期遷延性意識障害後に嗜好的経口摂取が可能になった症例」という演題で桑原が発表しました。まず、発表の内容について簡単に報告します。重篤な意識障害のため人工呼吸器管理・経鼻経管栄養の状態で約10年前に他院から当院に転院してきたある患者さんは当院転院後に自発呼吸が始まり、人工呼吸器から離脱し、その後痛み刺激などにも反応するようになり、転院8年目には簡単な意思疎通ができ始めました。経口摂取希望を問う質問にうなずいたため、STの関わりも開始し、言語機能や食べる機能に働きかけたところ、コミュニケーションがスムーズに図れるようになり、発症後約20年ぶりに嗜好品や少量の食事摂取も可能になりました。この患者さんの当院での長期経過を報告し、意識障害の改善の要因について神経学的観点からまた乳幼児の食べる機能の発達を参考に考察しました。

他の演題としては、「食べたい思いをどう支えるか」(徳島病院看護師)や「VF検査のクリティカルパスを導入して」(高松医療センターST)など栄養士や看護師 ST、医師の発表がら題ありました。

今回は愛媛県という遠方ではありましたが、皆深夜勤務後にも関わらず、3名の看護師が参加しました。例年よりも多くの参加者がいて、道中にもぎやかで良かったと思います。

私の発表にあたっては考察の仕方に苦慮しましたが、院長先生のご助言やご指導があり、なんとかかまとめることができました。発表にあたり、協力してくださった院長先生をはじめ、看護部や栄養部、リハ部のスタッフに感謝申し上げます。来年度は高知で開催されます。多くの方が参加できることを願います。

南国病院の理念

1. 安全で質の高い医療によって地域に貢献します。
2. 信頼関係に基づき暖かい医療を提供します。
3. 専門性を追求し自己研鑽に努めます。

基本方針

1. 病院が地域の社会資源であるとの認識に立ち、本院の専門性を通して、地域の医療と福祉に貢献します。
2. 本院は、脳と神経及び精神の疾病や障害を主な診療対象として、その神経学的、精神医学的診断、治療と臨床的研究に努めます。
3. 個々の患者とその家族への十分な説明とそれに基づく納得の上での同意を前提として診療を行います。
4. 本院での医療行為は、科学的根拠に基づき、自由で暖かい生命倫理に立って行います。医療環境が常に清潔で、明るく保たれる様努力します。
5. 本院の職員は、常に自己の資質と医療技術の向上に努め、病める人たちへの奉仕者としての自覚を持ちます。

平成 22 年 4 月 1 日改訂

当院は患者さんの信頼に基づく適切な医療を行うために患者さんの基本的な権利を尊重します。

患者さんの権利

1. 患者さんが適切な医療を平等に受ける権利
患者さんは差別されることなく平等に、当院で達成可能な医療を受ける権利があります。
2. 患者さんの人格、価値観が常に尊重される権利
患者さんはひとりの人間として、その人格、価値観などが尊重されます。
3. 患者さんが医師等から十分な説明を受け、自らの意志で医療行為を選択・決定する権利

患者さんは、医療の内容、治療・検査などの効果・危険性、他の治療法などについて説明を受け、医療の内容を十分理解し、同意した上で、適切な医療を選択し、受ける権利があります。同意できない場合は、医療を受けることを拒否することもできます。また、主治医だけの意見ではなく、第三者である医師の意見も聞いて判断したいと思われる場合には、自由にセカンドオピニオンを求める権利があります。

4. 患者さんがご自身の診療に関する情報の提供を受ける権利
患者さんは、当院で行われたご自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
5. 患者さんの個人情報、プライバシーが保障される権利
患者さんは、病院内での生活を、可能な限り、他人に侵害されない権利があります。また、医療の過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者さんの承諾なしには開示されない権利があります。

患者さんへのお願い

患者さんには、私たちが、安全かつ適切な医療の提供を行うために、次のことをお願いいたします。

1. ご自身の体調に関する情報を正しくお伝え下さい。
2. 医療に関するご希望を率直にお伝え下さい。
3. 検査や治療などの医療行為は十分にご理解と合意の上でお受け下さい。
4. 療養上必要な制約を受けることをご理解下さい。
5. 他の患者さんの治療や職員の業務に支障をきたさないようご協力下さい。

平成 21 年 10 月 1 日

診療のご案内

診療科目	神経内科 精神科 消化器内科 内科 リハビリテーション科 放射線科
診療時間	月～金 午前 8:30～12:30 午後 1:30～ 5:00 土 午前 8:30～12:30
休日診療	なし 但し急患は診療いたします
面会時間	午前 9:00 ～ 午後 9:00
予約診療	全ての診療科において予約診療を行っております
救急指定	なし
健康診断・人間ドック	あり 脳神経検診、消化器検診

平成 23 年度 10～12 月

外来患者数	5,756 名
(内 新 患 数)	268 名
1 日平均入院患者数	151 名
精神科デイケア利用者総数	1,330 名
通所リハビリテーション利用者総数	816 名
訪問看護ステーションおおそね訪問件数	504 名

			月	火	水	木	金	土
午前	神経内科	1 診	吉村	院長	吉村	吉村	院長	院長
	精神科	2 診	玉元	森田	玉元	玉元		森田
	消化器内科 内科	3 診	川村	川村	川村	川村	川村	川村 ※
午後	精神科	2 診	森田	玉元			森田	
	消化器内科 内科	3 診		麻植 (淳)		麻植 (淳)	麻植 (啓)	

※ 川村医師の土曜日の診察は第 2, 第 4 土曜日のみです

- 認定・指定
日本神経学会教育関連施設
日本静脈経腸栄養学会
NST 稼働施設
高知県神経難病医療
ネットワーク基幹協力病院
- 病床数
病床 162 床
特殊疾患病棟 (I) 46 床
医療療養病棟 56 床
精神療養病棟 60 床

